

日本福祉大学 21世紀COEプログラム
Working Paper Series, WP-2006-06-J

過疎の集落で生活する高齢者の生活課題と支援に関する研究
- 限界集落を中心に -

キーワード：限界集落、生活支援、過疎化、居住福祉
日本福祉大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程 杉井 たつ子

要旨

日本では、全国的に人口が減少することが予測されており、特に山間地等においては、さらに過疎化が進行することが指摘されている。既に、集落の消滅に伴う土地や資源の荒廃は着実に進行している。

現在の過疎地域の特徴は、経済力の乏しさと高齢化にある。人口減少の原因は、転出等による社会減少よりも集落内で生活してきた住民の出生よりも死亡による自然減少の方が多く、過疎地域がかかえる課題は変化している。さらに、近年においては、三位一体の改革や市町村合併が全国的に進められているなかで、身近な生活の公共サービスが切り捨てられている現状がある。

本研究は、山間部にある過疎地域のD町の限界集落で生活を続けている高齢者が、身の自立や安定した健康状態のうえに、子供等親族の生活支援を得ながら生活している生活の実態を把握した。特定の地域における事例検討ではあるが、事例をとおして過疎の集落で生活する高齢者の生活の課題をとらえ、今後過疎化が進行する集落への支援を検討することは重要であると考え。さらに、今後、限界集落で生活する人たち（高齢者）の居住の権利と、過疎集落が維持可能な社会システムを構築するために必要な定住支援について検討した。